淑　徳　大　学　広　報　誌

Together

2016 Winter | http://www.shukutoku.ac.jp

SHUKUTOKU

Cover Person
岡島 杏さん
看護学科2年

特集 2
BRAZIL研修へ行ってきました

学長メッセージ
50周年を機に、あらためて建学の精神を共有したい
次の50年の歴史をつくるのは私たち一人ひとり

ともいきのこころ
共生きの輪を世界へ。
学祖の偉業、日伯の交流の歴史を辿る
ブラジル派遣研修

淑徳人
ポラス(株)　林 夏海さん

クラブプレス

淑徳調査団
若者の政治参加、投票行動

NEWS CLIP

知識モリモリ × 栄養モリモリ
若い世代から
骨粗鬆症予防の生活習慣を

特集 1
全学がこころひとつに
50周年記念事業の展開

209
2016. 1. 1

50周年を機に、あらためて建学の精神を共有したい

次の50年の歴史をつくるのは私たち一人ひとり

昨年、創立50周年記念式典を無事に執り行うことができました。本学ならではの節目の催しになったと思っています。尽力された教職員、学生諸君、関係者の方々、ご列席いただいた皆様に、紙面をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

そして、新年を迎え、本学は次の50年に向けてあらたな一歩を踏み出しました。先行きが不透明な時代において、いかにして本学の独自性や特徴を発揮して、社会の期待に応えていくか。その土台となるのは、いうまでもなく、共生き、"together with him"の精神です。これを、私たち一人ひとりが再確認し、自覚することが、新しいスタートにあたり、最も大事なことだと考えます。そのため、長谷川匡俊理事長のご指導のもと、4つのキャンパスに、学祖の座右の銘である「感恩奉仕」の文字を刻んだモニュメントを設置しました。多くの卒業生や、実習に励む学生が社会から高い評価を得ていますが、その思いやりに満ちた人柄が、まさに淑徳らしさではないでしょうか。日々学祖の言葉に触れ、他者のために進んで行動できる人間性を養うと同時に、本学で学ぶことに誇りと自信をもってほしいと思います。

この建学の精神にもとづき、本学の教育で伝統的に大事にしていることは、学生としっかり向き合うことです。開学にあたり、学祖もこのことを教職員に徹底するように求めました。言葉をかけ、気持ちを受け止め、それを認めることで、人は尊重されている実感を得ることができます。それが、成長につながります。これからも、教職員は学生と向き合うことをいっそうきめ細かく実践していきます。人と真摯に向き合うことは共生きの基本であり、関係性を築く第一歩です。建学の精神を学ぶ意味で、実習やボランティア活動の場で、皆さんもぜひ試みてください。

さて、国際社会に難問が山積するなかで、私たちは本学にふさわしい使命を果たしていかなければなりません。その一つとして、今後、アジアの福祉人材の育成支援に貢献していきたいと考えています。平成29年をめどに、大学機関としての国際交流センターを設置する予定です。

かつて、学祖がブラジルとの架け橋となったように、共生きのバトンをさらに海外に広げていきたいと考えます。新年にあたり、一人ひとりがバトンを受け継ぐ重みをいっそう深く自覚されることを望みます。

淑徳大学 学長
足立（あだち） 叡（あきら）

Topics

がんばっている学生、グループ、注目のイベントなどをご紹介。

CHIBA

10月31日（土）・11月1日（日）
第49回龍澤祭「淑徳の進歩と調和」

SAITAMA

10月24日（土）・25日（日）
第20回淑徳祭「彩〜君が創る 20th 〜」

TOKYO

11月21日（土）・22日（日）
淑徳祭「Let's have a Blast 〜楽しもう！淑徳祭 TOKYO2015 〜」

今年も学園祭が各キャンパスで盛大に行われました。

学生による研究発表や、ステージ発表だけではなく、地域の味覚をふんだんに使った模擬店販売や、近隣のNPO法人や福祉園からの参加もあり、どのキャンパスも淑徳大学らしい地域密着型の学園祭となりました。なかでも千葉キャンパスでは、大巌寺幼稚園から園児の皆さんが駆けつけ、微笑ましいオープニングパフォーマンスを披露してくれました。

学園祭と並行して開催されたオープンキャンパス（特集にも記事掲載）にも、同様にたくさんの卒業生の皆さんが来校し、非常に賑やかな会となりました。

SAITAMA

女子柔道部 全日本学生チャンピオン誕生

国際コミュニケーション学部3年の臼井杏さんが、10月4日に行われた平成27年度全日本学生柔道体重別選手権大会（男子34回 女子31回）女子57kg級において見事優勝しました。多くの強豪選手を抑えての優勝で、本学としては8人目（9度目）の学生チャンピオンとなります。大舞台での栄冠はさらなる自信につながったことでしょう。今後の活躍に目が離せません。

CHIBA

女子バレーボール部 益子監督就任

平成27年10月より、元女子バレーボール日本代表選手の益子直美さんが淑徳大学女子バレーボール部の新監督として就任しました。選手や指導者としての実績はもちろんのこと、マルチに活躍されてきた益子監督は、輝く女性として、学生たちの素晴らしい目標になるはずです。「私まで元気をもらえそうなチーム。NO.1を目指します！」と意気込みを語っています。

表紙の人
Cover Person

岡島 杏 さん ／看護栄養学部 看護学科 2年

今年の8月、初めての看護栄養学部派遣員としてブラジル研修に行ってきました。福祉・教育・看護の学生が共に学ぶ貴重な機会で多くの体験をすることができました。大学では、患者さんの身体だけでなく心もケアすることができる看護師になることを目標に日々取り組んでいます。

アドミッションスタッフとして活動したり、第1キャンパスのバスケットボールサークルに所属したりと人のつながりや自ら率先して動くことを大切に充実した日々を送っています。Together で取り上げていただくのは去年東京キャンパスで行われた「淑徳女子トーク」以来2回目です。

▲教育福祉学科　伊藤瑞穂さん（左側）と看護学科　岡島杏さん（右側）
サンパウロ国際空港にて

特集

全学がこころひとつに 50周年記念事業の展開

昨秋、創立50周年記念式典が盛大に挙行されました。あわせて、埼玉キャンパス学部開設20周年式典も開催。各キャンパスにおいて、節目の年を記念するさまざまな行事・催しが行われています。本学の理念や学祖の功績を継承すべく、各キャンパスに記念モニュメントを建立。

また、学祖50回忌記念国際学術フォーラム、日本仏教社会福祉学会主催のシンポジウムなどが開催され、世界に向けて共生きの輪が広がっています。

あらためてダイジェストで振り返り、本学が誇る伝統と果たすべき使命を共に考えましょう。

埼玉キャンパス 学部開設20周年 ―大学創立50周年事業―

大学創立50周年となる今年、埼玉キャンパスは学部開設20年となります。埼玉キャンパス学部開設20周年のイベントが、淑徳祭と併せて10月24日に開催されました。

午前中には埼玉協賛会・埼玉後援会・淑徳大学同窓会ご支援により新たにオープンしたフットサルコートで、テープカットののち学生サークル2チームにより記念試合が行われました。スポーツの授業やサークル活動など、活用の幅が広がります。

学部開設20周年祝賀会は、卒業生、在学生、退職された先生方、地域の皆様、その他学園関係の方々をお招きし、ホームカミングデーの一環として約500名での盛大な祝賀会となりました。

司会を務めたのは、東日本放送の元アナウンサーで国際コミュニケーション学部卒業生の中村（旧姓岩田）有未さん。

まずは長谷川匡俊理事長の挨拶から始まり、足立叡学長の挨拶、そして国際コミュニケーション学部の初代学部長である小林規威先生からも乾杯のご挨拶を頂きました。本学のこれまでとこれからを紹介するVTRに全員が見入りました。テーブルでは和やかな歓談が交わされる中、卒業生・在学生併せ、4チームが思い思いに多彩なダンスを披露。喝采の拍手が響きました。

その後、在学生・卒業生の代表による挨拶が交わされました。在学生代表は教育学部2年の坂上康介さん。大学への感謝と共に、将来への決意を語りました。卒業生を代表してメッセージをくださったのは、猪又和美さん（国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科2006年卒業）。

最後には参加者全員で大学歌を斉唱し、心を一つに、未来への希望と展望を分かち合いました。

埼玉キャンパス卒業生・在学生
サークルによるダンスパフォーマンス
1. TOPERS☆
2. ＊華組＊
3. Michel
4. OBG

創立50周年記念国際学術フォーラム

大会共通テーマ
アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割

10月9日、千葉キャンパス5号館にて淑徳大学創立50周年、学祖長谷川良信先生50回忌記念国際学術フォーラムが、「仏教〝ソーシャルワーク〟と西洋専門職ソーシャルワーク一次の第一歩」をテーマに開催されました。

アジアにおける仏教〝ソーシャルワーク〟の現状を共有し、西洋専門職ソーシャルワークとの異同に目を配り、〝仏教ソーシャルワーク〟構築へ向けての半歩を踏み出しました。海外からはスリランカ、ベトナム、ネパール、タイ、韓国から、国内からは本学および他大学からの先生方、院生・学生、その他およそ延べ500人が参加しました。

近年、スリランカは津波、ネパールは先日の大地震、タイは大洪水、ベトナムは台風による山間部の大被害の経験を持っています。各国からの参加者は、11日・12日、岩手県陸前高田の津波被災地を訪れ、自らも被害を受けた浄土寺で住職の話を聞き経験の交流が行われました。

日本仏教社会福祉学会第50回大会

大会共通テーマ
アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割

10日には日本仏教社会福祉学会が、5号館において引き続き開催されました。大正大学名誉教授石川到覚氏から基調講演をいただいた後、前日の国際学術フォーラムにおける議論を踏まえつつの有意義なシンポジウムとなりました。

翌日11日には分科会の研究発表も行われ、日本仏教社会福祉学会の、本学と同じく設立50周年としてふさわしい大会になりました。

ホームカミングデー開催

創立50周年記念行事の一環として行われた本年度ホームカミングデーは、千葉県同窓会の後押しをいただきながら例年以上に盛大に実施することができました。学長、同窓会長の挨拶、卒業生及び功労者表彰に続き、「クレヨンしんちゃん」野原しんのすけ役の声優で、淑徳短期大学の卒業生である矢島晶子氏の講演会を行いました。50周年を記念するにふさわしい講師、矢島氏の読み聞かせボランティアなど盛りだくさんの内容に聞き入りました。その後、モニュメント除幕式、記念植樹が大勢の卒業生、関係者の見守る中で行われました。会場を移動して行われた懇親会で、旧交を温め、語らい、最後はヘリコプターナイトクルージング券など豪華賞品を手に名残を惜しみつつ閉会されました。

「淑徳大学50年のあゆみ展」が開催される

7月9日から12月25日まで、千葉キャンパス・淑水記念館、埼玉キャンパス1号館、東京キャンパス4・5号館において、「淑徳大学50年のあゆみ展」が開催されました。これは、本学開学からこれまでの50年を第1章から第6章に分け、貴重な資料とともに映像を交えて展示したものです。本学の足跡が、高度成長期からバブル崩壊、多様化する21世紀社会までの時代背景を踏まえて紹介され、建学の精神が普遍であること、その具体的な取り組みがそれぞれの時代の要請に応えたものであったことをあらためて認識することができました。

モニュメント

創設50周年に伴い、大学のキャンパスにモニュメントが設置され、4つのキャンパスで除幕式が行われました。本学の「建学の精神」が、制作者にインスピレーションを与え具現化されたものです。一度じっくり鑑賞してください。

淑徳大学50周年記念モニュメント
制作のコンセプト

『記憶』「石は地球誕生46億年の記憶」長谷川良信先生の生誕の地・茨城県笠間市稲田で採石される御影石で表現する。

『生きる』生命の存続に欠かせない「水」を取り入れる。

『心』長谷川良信先生の座右の銘「感恩奉仕」の心を、錆びることのない金属（SUS・スチールとクロムの合金）で表現する。

この三つの素材で『永遠と不変』の表現とした。御影石の水盤に浮かぶ『感恩奉仕』の文字越しに流れ落ちる水が陽光に輝くのが美しい。

制作者　山田晃

学祖生誕地　顕彰碑建立

学祖 50 回忌顕彰事業の一環として、茨城県笠間市に学祖の顕彰碑を建立しました。

除幕記念式典では、石上善應上人が導師を勤め法要を行い、笠間市の関係者、本学関係者含めおよそ 50 名が参列し盛大に行われました。ご来賓の笠間市長　山口伸樹氏からは「社会福祉の先駆者であり、教育者でもある長谷川良信先生が笠間市の出身であることは地域にとって大いに誇れることです」と挨拶を頂戴しました。

建立された場所は、北関東自動車道に程近い学祖の生誕地である茨城県笠間市本戸にあり、「長谷川良信先生生誕地」の看板が設置され、そばには淑徳与野高等学校から遷座された慈母観音像も建立されています。

顕彰碑の全文は大学 HP に掲載されています

JAPAN

ブラジル研修へ行ってきました

BRAZIL

ニッケイ新聞社にて

5 Maringa

日本の良さ、日本とのちがいを実感

和順ホームは日本人、日系人の老人ホーム。利用者の方とお話させていただいていると、日本がいかに素晴らしく、文化に富んだ国であることをあらためて実感しました。命の保護ホームは、未婚の母親と子どもを保護する施設です。ブラジルはキリスト教思想の影響を受けているため、中絶はダブー視されています。こうしたなかで、事情を抱えた母子を助けようという施設長の思いで開設されました。穏やかに過ごす女性たち、純粋で可愛らしい子どもたち。こうした姿を目にして「生きている幸せ」を強く感じます。同時に、親や支えてくださった人への感謝を忘れてはならないと思いました。私立学校の見学では、日本とのちがいに気づかされました。親が子どもを車で送迎し、校門には警備員が立っています。日本と比べて治安は良くありません。また、ブラジルの学校では子どもたちに掃除をさせません。奴隷制度を想起させないためです。日本にいてはわからない現実を知ることができました。

中村ひとしさんからお話を伺う

APAE（特別支援学校）

4 Curitiba

クリチバの奇跡を生み出したのは日本人

クリチバ市は、都市計画、交通政策、環境政策の点で専門家の注目を集めている街です。繁華街から車をなくしたり、人々が交流できる場をつくったり、ゴミを食べ物と交換する緑の交換プログラムを展開したり、人と環境に優しい街づくりをめざしています。これは「クリチバの奇跡」と称賛されています。この取り組みを推進したのが、日系ブラジル一世の中村ひとしさんです。お話を聞いて、同じ日本人としてとても誇らしく思いました。

クリチバ日伯寺

サンパウロ日伯寺

2 Sao paulo

日伯寺から始まり、学祖の思いと足跡をたどる

南米浄土宗別院日伯寺は、サンパウロ、イビウーナ、マリンガ、クリチバの4ヶ所にあります。なかでも、サンパウロ日伯寺は開教本部があり、歴史を感じさせるつくりになっています。外観は荘厳な佇まい、中に入ると本堂は厳粛な雰囲気に満ちています。ここでは、研修の初めに、ブラジルの歴史や教育制度、社会福祉制度などについて学びます。遠く離れた異国の地で、家族の大切さ、貧困や格差の問題について深く考えさせられます。

命の保護ホーム

3 Sao paulo

してあげるのでなく、共に生きる可能性を広げる

こどもの園は知的障がい者施設です。利用者もスタッフもとても明るい雰囲気でした。自分でできることはやる、できないことは手伝ってもらう。励まし合う姿が印象的でした。日本の施設とちがい、広々とした敷地でのびのびと生活できることも良いと思います。利用者は太鼓やセラミカ（陶芸）、刺繍など、自分にあった素晴らしい技術を身につけており、逆に教えられることばかりでした。歓迎の歌を歌ってくださったことも思い出です。

こどもの園

1 Rio de Janeiro

ブラジルならではのスケールは圧巻

サンパウロに次ぐブラジル第二の都市で、世界三大美港として有名です。リオの空港を出た瞬間、空気が霞んで見えるほど、人も車も多い街。しかし、スケールの大きさや開放感は、やはりブラジルならでは。コルコバードの丘にあるキリスト像は、写真に収まらないほどの大きさで、圧倒されました。コパカバーナ・ビーチの海はとてもきれいで澄んでいました。夜、ホテルにいると爆竹の音が聞こえてきて、治安に不安は感じました。

リオデジャネイロ州

中央の写真 左から

看護学科２年　岡島 杏

現地の指導者さんから長谷川先生の思想でもある「自分の中心が世の中の中心ではない。他者（外側）から世の中（内側）を見るべきだ。」という言葉を研修の中で教わりました。自分にとって興味のないことや都合の悪いものは、自分を中心にすると視野に入りません。あたかも最初から“なかった”かのように写るそうです。しかし視点を変えると、それが“なかった”のではなく“見ていなかった”ということに気がつくことができます。これは看護の領域でも全く同じことが言えるのではないかと考えるきっかけを得ることができました。

こども教育学科２年　石山 紗衣

私は今回の研修でこどもの園を訪れ、障がいを持っている人のために「〇〇してあげる」という考えではなく、自分ではどうすることもできない時に「手を差し伸べる」という考え方に出会いました。施設の方々は、太鼓や陶芸、刺繍などの裁縫など、それぞれが自分に合った技術を身に付けており、お手伝いをするつもりが逆にたくさんのことを教えてもらいました。障がいを持っていたとしても、できることは必ずあり、援助者はその人たちと共にできることの可能性を広げていくということが大切なのだと学びました。

教育福祉学科３年　伊藤 瑞穂

私は海外に興味があり、ブラジル研修の前に英国研修にも参加した。英国ではホームステイ生活を通して日本とは違った文化を肌で感じ、また、老人ホームや障がい者施設も見学させていただいた。今はインターネットを利用すればブラジルについて知ることができるが、英国以外の国でも実際に現地で学び自分の五感で体験してみたかった。ブラジル研修でも老人ホームと障がい者施設を見学できるということだったので、日伯英の共通点、相違点を見てみようと思い、研修に参加しました。

文化コミュニケーション学科３年　大曽根 葵

今回の研修で、日本人として、日本をもっと深く知るべきと感じた。ブラジルの方と話す際に、お互いの国どうしの相違点について話すことがあった。命の保護ホームでは、ブラジルでは中絶が認められていないが日本ではどうなのかと尋ねられ、困る場面もあった。現地の方も日本に詳しく、自分の理解不足を何度も感じた。また、一番印象深かったのは日本語特有の擬音語の表現の豊かさについて話をして頂けたときだ。言語を学んでいる身として重要な部分に気づかせてもらった。

こども教育学科２年　萩原 健悟

今回のブラジル研修でこどもの園を訪れた際、園児の笑顔や明るい様子を目にした。皆がこどもの園を愛し、自分の居場所としている人が多いと感じた。笑顔で挨拶をすること、名前を覚えて呼んであげること、また、ダンスを通して手を握ったり、肩を組んだり、一緒に歌を歌ったり、ハイタッチを交わしたりするなかで、言葉の壁を乗り越えてコミュニケーションをはかり心を通わすことができるということを身をもって体験できました。

教育福祉学科２年　堂前 憲弘

今回の研修では、経済が教育に及ぼす影響について知ることができた。ブラジルの公立学校では、給食を提供するためのお金が国から出ていないため、午前か午後のどちらかでしか授業を受けられない。私立の学校ならば午前も午後も授業を受けられるが、通えるのは高所得者だけだ。ブラジルで問題になっている貧富の格差を解消するためには公立学校での教育を充実させることが必要だ。私は教育にはお金がかかること、また、日本が教育に力を注いでいることを感じる事が出来ました。

教育福祉学科２年　瀧本 奈央

私はゼミの担任の先生から話を聞き、ブラジル研修に興味を持った。そこで、この研修のきっかけとなった学祖について調べてみると、ブラジルへ渡りさまざまなことを行った行動力とその功績を知り、感銘を受けた。その行いがどのような形で現地の人々に影響し、どのような形で現在のブラジルに残っているのかさらに興味が深まったというのが、研修に応募した理由です。

和順ホーム

ともいきのこころ

共生きの輪を世界へ。学祖の偉業、日伯の交流の歴史を辿る ブラジル派遣研修

本学開学20周年を期に発足したブラジル派遣研修制度。創立50周年を迎えた今日も継続され、各回参加する学生たちに新たな学びと気づきをもたらしている。日本の見えない貧困の問題、貧困や格差の問題を抱えるブラジル。異なる社会を見比べるからこそ、共生きについて深く考える機会となる。グローバル社会を生きる私たちに、学祖のバトンは託されている。

日本人のブラジル移住100年を超える歴史

2016年にブラジルのリオデジャネイロで夏季オリンピックが開催される。続いて、2020年に東京で開催されるのも不思議な縁である。日本人のブラジルへの移住は、1908年(明治41年)に、笠戸丸で781人が渡伯したのが最初だという。以降、中断はあったものの、戦前の最盛期1933～34年(昭和8～9年)には年間約2万人が、戦後の最盛期1954～61年(昭和29～36年)には年間4,000～7,000人が移住し、海外最大の日系社会を築くに至った。

サンパウロの「日伯寺」(仮堂)にて

海外移住が行われた背景には、当時のわが国の食糧問題、人口問題がある。少子高齢化が進む現代では考えられないことだろう。人口や労働、貧窮の問題は社会事業とも深く関わっており、学祖が移民の問題を看過できなかったのも必然の成り行きといえる。

学祖が初めてブラジルに目を向けたのは、戦前の移民最盛期の頃と考えられる。ブラジル開発を目的とする日本高等拓殖学校において教師として指導にあたっていた時期もあった。国境を越えて社会事業へ注ぐ情熱、視野の広さにはあらためて驚かされる。

学祖がめざしたブラジルでの社会事業

学祖のブラジル訪問は、1953年(昭和28年)11月～1955年(昭和30年)3月、1957年(昭和32年)3月～1958年(昭和33年)10月、1962年(昭和37年)7～10月の3回である。これを時期的に見ると、わが国の海外移住振興期とまったく重なる。最初にブラジルに渡ったのが63歳という老年期に入ってからのことで、しかも飛行機ではなく船でアメリカを経由し、ブラジルに入っている。ブラジル全20余州の大方を踏破し、約二千人の知縁を得たという。

南米各国に移民した数多くの日本人を訪れ激励すること。寺院を建設し、宗教・教育・文化・社会福祉の拠点とすることが学祖の理想であった。1954年に「南米仏教浄土宗別院日伯寺」がブラジル政府の正式な認可を受け、さらに後年の日伯寺学園、こどもの園などの事業に展開していく。こどもの園で実現する知的障がい児童の救済は、学祖が特に力を注いだことで、その功績を讃え、現在、同園に通じる道路はRua Professor Hasegawa(長谷川教授通り)と呼ばれ親しまれている。

ブラジル派遣研修で学祖の実践を体感する

このように、学祖が提唱した「宗教・教育・社会福祉の三位一体」の思想は、わ国から遠く離れたブラジルでも実践され、共生きの輪を広げてきた。学祖の足跡を辿るブラジル派遣研修は1986年(昭和61年)に開始され、約30年にわたって中断することなく継続されている。研修に参加する学生たちは、日伯寺、こどもの園、和順ホームなど、学祖の理想が具現化されたものを体感的に学び、共生きや社会事業の本質をあらためて心に深く刻むことだろう。あわせて、帰国してから、わが国の社会福祉の現実をさらに考察し、ブラジルのそれと照らし合わせた時に、その学びはいっそう意味あるものになる。

世界の人口は70億人を超え、2050年には100億人近くなるという推計もある。食糧問題、環境問題、貧富の拡大、病院や学校の不足など、解決しなければならない問題は山積している。これらに向き合ううえで、人間や命あるものすべての尊厳、共生きは普遍の信念だ。私たちは、学祖のバトンを受け継ぎ、未来社会の課題に果敢に挑んでいかなければならない。

日系人の会社を訪問して歓談のひととき

こどもの園で長谷川良信先生歓迎運動会に参加

209 OB OG Interview

淑徳人

HAYASHI Natsumi

林 夏海さん

ポラス株式会社

多くの人とのコミュニケーションが可能性を広げる

いろんな人の幸せを支えたいと、新生活を始める人に向けて住まい探しのお手伝いをする仕事に取り組む林夏海さん。仕事だけでなく、日々の生活で大事なのはEQ(心の知能指数)の高さだといいます。林さんはどのような学生生活を送り、そしてEQを高めたのかをお聞きしました。

群馬県生まれ。2012年、国際コミュニケーション学部卒業。同年、ポラス株式会社に入社、コミュニケーション部に所属。地元密着の不動産会社ポラスで住まいに関する情報提供ホームページの運営や分析、トップパートナーでもある浦和レッドダイヤモンズの事務局も務める。

「住まい探しという新たなスタートを切るときに、WEBを通じてお手伝いをさせていただくこの仕事は、とてもやりがいを感じます」

そう話すのは不動産会社のポラス株式会社でコミュニケーション部に所属する林夏海さん。ホームページの運営やユーザー動向を分析し、そこから顧客を獲得する業務に就いています。

林さんは大学入学時に部屋探しで辛い思いをした。もし自分がこの仕事をしていたらもっとうまくやれるだろうと思い、不動産・住宅に関する今の仕事を選んだそうです。

林さんは大学を選ぶ際、旅行業に関わる仕事がしたくて淑徳大学の観光ツーリズムコースを選択しました。

しかし、学年が上がり就職について本気で考えるようになり、先輩の経験談や先生の話を聞くうちに、旅行業だけに絞って就職活動をするのはリスクが高いと感じるようになりました。そこで、不動産業をもう一つ希望職種に加え、その希望が叶いました。入社4年目を迎え、少しずつ任される仕事も大きく、そして多くなっています。

実は林さんは大学時代にも人生で新たなスタートを切る際のお手伝いをする仕事をしていました。

アドミッションスタッフ(アドスタッフ)としての活動です。

「アドスタッフでは淑徳大学のことや自分の専門について、これから大学進学を考えている高校生やその親御さんにお話するので、自分を見つめ直すいい機会になりました。キャンパスツアーに参加してくれた生徒さんがその後入学してくれたのはうれしかったと同時に責任の重さも感じましたね」アドスタッフの活動を通じてコニュニケーション能力を高めることができたとも。

「大学時代は同級生だけでなく、先輩たちと交流したことで、世界が広がりました」コミュニケーションという点では、もし自分がトラブルにあった時、それを隠すのではなく同じ組織の仲間と共有することも大事だと。

大変なことも多いが、今は仕事がとても楽しいですと林さん。

最後に将来の展望を聞きました。

「この先、結婚して出産しても仕事を続けて行きたいですね。家庭を持つことで新たな視点ができるはずです。それを武器にもっと上のポジションで仕事がしたいですね。そしてもっと多くの人の幸せのお手伝いができればと思っています」林さんの将来の設計図はしっかり描かれているようです。

photo

埼玉スタジアムでポラスブースを設けてイベントを実施。大人気だった写真撮影コーナーで記念写真(右側が林さん)

キャンパスツアー発着所にて呼び込み中。内心はこの後のツアーが上手くいくかドキドキです(右側が林さん)

ゼミで中国近代史を専攻し実地研修には5回参加。国境を越えてたくさんの人と交流が図れました。写真は北京「天安門広場」にて(左側が林さん)

クラブプレス

Volleyball

排球部

CHIBA Campus

- 代表者：津田 美波（教育福祉学科 3年）
- 創　部：1968年
- 部員数：27名(男子11名 女子16名)
- 活動日：火・水・金曜日(土曜日)
- 部　室：14号館8

こんにちは、排球部です。現在部員数は男子11名、女子16名の計27名で元気良く活動しています！私たちは春と秋に行われる大会での昇格を目標に日々練習に励んでいます！バレーボール経験は部員によって様々ですが、みんな仲が良くお互いの技術を高めるために教え合いを大切にし、練習中も雰囲気よく体育館には笑顔が溢れています！

火曜日は女子練、水曜日は男子練、金曜日は男女合同練習になっており、土日や長期休みは他大学さんとの交流も多く遠征にいったりなど活動は充実しています！

個性豊かな私たちとバレーをやってみませんか？興味のある方はぜひ！体育館でおまちしてます!!

A cappella

アカペラサークル JamHolder

SAITAMA Campus

- 代表者：峯嵜 桃子(こども教育学科2年)
- 創　部：2014年
- 部員数：45名
- 活動日：木曜日
- 部　室：部室棟301・306

わたしたちJamHolderは、学年、学部、学科も関係なく毎週楽しく活動しています。一人ひとりの歌に対する想いは熱く大きく、歌が大好きな人達です。アップテンポな曲や、バラードなど様々なジャンルの曲を歌っています。

現在の活動としては、文化祭など大学内での行事や、図書館でのミニコンサート、またオープンキャンパスの際にも歌っています。

今後の目標としては、今よりさらに活動の幅を広げ、よりたくさんの人たちに聴いていただくための機会を増やすことです。

わたしたちJamHolderは、その部員ほとんどがアカペラ初心者です。歌が好きな人、アカペラに興味がある人、自分もやってみたいと感じた人……。初心者・経験者問わずいつでもお待ちしています！

Teacher

教職研究会「淑徳大学師道塾」

TOKYO Campus

- 代表者：澤田 星輝（歴史学科2年）
- 創　部：2015年
- 部員数：15名(男子12名 女子3名)
- 活動日：毎週 火・水・木曜日
- 部　室：なし

私たちは東京キャンパスの教職研究会「淑徳大学師道塾」です。

2015年11月に発足したサークルで、将来中学校や高等学校の教員を目指す学生が集まっています。卒業単位にはなりませんが、毎週サークルに所属しているすべての学生が参加し、実践的な模擬授業を通して授業構成力を養っています。

具体的には、発声方法からチョークの持ち方、黒板との向かい方、板書方法や板書案の作成など、学ばなければならないことは多岐にわたりますが、それらの技術をひとつずつ身につけることによって、教員への道を確かなものにしていけると考えています。

同じ志をもった学生同士なので、時には良きライバルであり、板書案などで相談できる仲間でもあります。日本の歴史教育を支えることの出来る人間になるべく、毎日切磋琢磨していきます！

淑徳調査団

vol.10

日本の民主主義を成熟化させよう！

今回のテーマは **若者の政治参加、投票行動**を徹底リサーチ！

第10回を数える「淑徳調査団」は、淑徳大学にまつわるギモンや面白そうなことをリサーチしていく企画です。

2016年夏から選挙権が18歳から得られる事になったので、今回は「若者の政治参加、投票行動」というテーマでコミュニティ政策学部 矢尾板クラス『ちばでも』プロジェクトチームが徹底リサーチ！

WHY?

衆議院総選挙（平成26年12月）の
20歳代の投票率は 32.58%でした。　「明るい選挙推進協会」調べ

現在、若年世代の投票率が低いことが課題となっています。今回の衆議院総選挙の20代の投票率は、昭和41年以降で最も低い投票率でした。矢尾板クラスでは、平成25年度より「ちばでも」プロジェクトをスタートさせ、若者の政治参加、投票行動について、事例研究とサービスラーニング活動による若者の投票率向上のための取り組みを進めています。

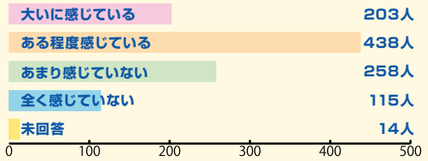
こうした取り組みは、NHK、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞、千葉日報などで、これまで取り上げていただきました。平成26年度からは、千葉県選挙管理委員会と連携し、選挙啓発活動や主権者教育の取り組みとして、小学校や高等学校での模擬投票を実施したりしています。

Data 1

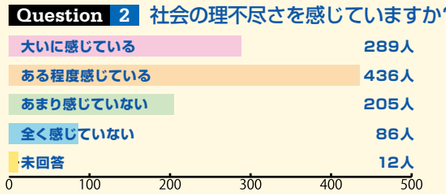
千葉県内の若者（1028名）に
若者の政治参加や投票行動を知るために
アンケート調査を実施しました。　協力：朝日新聞千葉総局

【期　　間】平成26年8月～11月
【対　　象】千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県等の関東地方に住む10代～20代の男女。千葉県内の県立高校の生徒さん、淑徳大学千葉キャンパス、東京キャンパスの学生の皆さん。
【アンケート方法】インターネットモニター調査、WEB調査、質問紙への記入方式による調査。
【回 答 者 数】1028名
【調査票の設計】Downs（1957）、Riker and Ordeshook（1968）の「合理的投票者」モデルを想定し、設計。

Question 1　社会に対する疑問を感じていますか？



Question 2　社会の理不尽さを感じていますか？



本アンケート調査の結果が、朝日新聞2015年12月20日付朝刊で紹介されました。

Data 2

アンケート調査をしてみて…

「若者は、社会への疑問や社会の理不尽さを強く感じているが、その表明手段としての“投票”行動に必ずしも結びついていない」

- **投票に行っている方の理由**
  「市民としての権利・義務だから」が最も理由としては多く、候補者や政党に関わる理由は少ないという結果でした。
- **投票に行っていない方の理由**
  「投票しても、世の中には影響を与えられないと思うから」という理由が最も多く、次に「投票日当日に予定があるから」という理由が多いという結果でした。

これらの結果より、若者にとって、自らの投票行動が社会に影響を与えないと感じてしまっている、若者は政治からの「疎外感」や「無力感」を強く持っているのではないでしょうか。

さらに印象的であったのは、「社会への疑問」や「社会への理不尽さ」は強く感じているということでした。そうした思いの表明方法として投票は有効ですが、表明したとしても、政治に何らかの影響を与えられないとすれば、行動そのものが行われなくなる、という悪循環が生じているのではないかと推測しました。

今回の研究成果は、12月5日、6日に横浜市立大学で開催された公共選択学会学生の集い（13大学計38チームが参加）で発表し、他大学の学生の皆さんとも議論を行い、さらに意見を深めました。

政策提言

今回のアンケート調査の結果から推測できることに基づき、私たちは、いくつかの政策提言をまとめました。

今後、千葉県選挙管理委員会や千葉市選挙管理委員会に提言内容を報告する予定です。

その❶　有権者意識を高め、若者が自己の意思決定の基礎を築くために、「模擬投票」などの主権者教育を学校教育に積極的に導入するべき。

その❷　選挙期間中に、選挙管理委員会主催の候補者による公開討論会の開催、WEBを使った有権者と候補者とのコミュニケーションを促進するための「投票促進条例」や候補者の政策の質を高めるための「マニフェスト作成支援条例」を制定すべき。

その❸　大学キャンパス内での期日前投票所の設置。
（千葉市で設置されれば政令指定都市では初）

協力：コミュニティ政策学部　矢尾板俊平クラス『ちばでも』プロジェクトメンバー

上原　佑生さん(3年)
大野　魁斗さん(3年)
田村　直人さん(3年)
鳰川　貴也さん(3年)
馬場　優樹さん(3年)
水野　智尋さん(3年)
井上　采さん(4年)
岩崎　和幸さん(4年)
宇田川 真平さん(4年)
加世　一貴さん(4年)
香取　裕多さん(4年)
近藤　佑さん(4年)
近藤　稜太さん(4年)
木村　有花さん(4年)
SYEMBYE JADRAさん(4年)
永見　慶太さん(4年)
林　尚吾さん(4年)
細田　壮佑さん(4年)

Thank you!!

淑徳調査団 募集！
reply@soc.shukutoku.ac.jp

NEWS CLIP

2015.9-2015.12

ALL Campus

中国東北師範大学人文学院訪日団来学

11月22日～27日、中国吉林省長春市にある東北師範大学人文学院の穆樹源理事長、国際交流センター李娟副センター長、福祉人材訓練センター魏明先生の3人が淑徳大学を訪れ、本学の主に社会福祉分野における相互交流について、足立学長と田中副学長及び総合福祉学部教授陣と会談を行いました。

東北師範大学人文学院は、2004年に中国教育部（日本の文部科学省）より認可を受けた私立大学で、福祉学部、国際商務学部、文学部、デザイン学部など11学部を有し、約11,000人の学生が在籍しています。

会談や施設見学(大学施設と淑徳共生苑)を通じて、高齢化の進む中国社会における高齢者施設の管理者養成と福祉分野における教員養成の支援、教員および学生の相互交流と研究課題開発について、今後両大学間の友好関係を深めていくことを確認しました。

CHIBA Campus

CHIBA UNIVERSITY PRESS 特別賞受賞

9月24日、2015年度の千葉日報社主催「CHIBA UNIVERSITY PRESS 閉講式」にコミュニティ政策学部斉藤保昭教授のゼミ生（3年生)らが参加し、昨年度に引き続き本年度も特別賞を受賞しました。今年の2月より千葉日報本紙の記事作成のために、各学生が取材や写真撮影、レイアウトに至るまで主体的に取り組んできた成果が実りました。学生が作成した新聞記事は千葉日報社CHIBA UNIVERSITY PRESS ホームページでご覧になれます（http://www.chibanippo.co.jp/cup/）。

各学生はこれを励みにして、学生生活のよりいっそうの充実を誓っていました。

淑徳版　心にひびく一文

千葉図書館では秋の展示として10月5日から「淑徳版　心にひびく一文」と題し、これは学生・教職員に専門書・小説などジャンルを問わずアンケート募集したものです。

コメントを付けて41冊の本を紹介しております。ラインナップが新鮮で、この展示の貸出数も増加しており募集企画は大盛況です。展示コーナーは図書館に入ってすぐ、カウンター前にあります。

常盤平団地スポーツフェアに参加

10月25日、地区社会福祉協議会が熱心な孤独死対策に取り組んでいる千葉県松戸市の常盤平団地で開催されたスポーツフェアに、コミュニティ政策学部1年Cクラス10名と鏡教授が参加しました。学生は、会場の設営・撤去や運営のお手伝い、さらに競技への参加など、活躍をしました。地元の皆さまからは感謝の声をいただきました。

中国大学生訪日団人文学院来学

11月27日、外務省推進「JENESYS2.0」事業の一環として、（公財）日中友好協会主催の中国大学生訪日団67名（社会福祉を学ぶ大学生60名と引率7名）が淑徳大学を訪ねました。一行は午前に淑徳共生苑において、結城教授の「日本の高齢者施策の現状について」の講義と林施設長の概要説明を受けた後、施設見学をしました。

午後は千葉キャンパスの教室で戸塚学部長の歓迎挨拶とオリエンテーションを受け、4グループに分けられ、社会福祉学科2年生クラスの学生たちと交流し、活発な意見交換をしました。その後、一行は大学を見学して、結城教授指導のもとで1日の活動の総括をしましたが、訪日団の学生たちは日本の高齢者福祉に興味関心が高く、次から次へと質問と感想を述べました。この1日の淑徳ツアーは彼らにとってこれからの社会福祉勉強に大きく役立つことだと思われます。

CHIBA2nd Campus

千葉湊大漁まつりでボランティア

11月8日、千葉ポートパークで開催された「千葉湊大漁まつり ～第39回千葉市民産業まつり～」に看護学科、栄養学科の学生9名がボランティアとして参加しました。参加ブースは千葉市地方卸売市場で、焼きサンマの無料配布、青果の模擬競りでした。あいにくの雨にもかかわらず、1,200匹分の焼きサンマの整理券はすぐに無くなるほどの人気で、一部の学生はサンマ焼きにも挑戦しました。焼きたてのサンマは格別のおいしさで、雨で肌寒い中、ほっとするひと時を皆さんに届けられたと思います。

千葉東病院外来装飾ボランティアが３年目を迎えました

今冬で千葉東病院外来装飾ボランティアMaking Project in Shukutokuの活動が3年目を迎えました。1、2年次生を中心に春夏秋冬に合わせたデザインを考案し、外来にて患者さんやご家族に癒しの空間を提供しています。「看護学生さんからのすてきな贈り物」として装飾ボランティアの活動の様子が独立行政法人国立病院機構の機関誌「医療の広場」第55巻第7号に掲載されました。

第７回看護栄養川柳コンテスト表彰作品発表

毎年恒例の看護川柳コンテストは、看護栄養川柳コンテストと名称を変更し、今年で7回目を迎え、全国各地より418句もの川柳が寄せられました。今回も多数の優れた作品の応募があり、厳正な選考の結果、5作品が入選いたしました。

大賞	かみ合わぬ　話にめげず　声掛ける	花井　猛　様
優秀賞	ありがとう　それが互いの　栄養素	酒井　具視　様
佳作	心まで　あたためている　介護の手	上野　翠　様
佳作	栄養が　もっと欲しいな　脳味噌に	臨海　和笑　様
佳作	看護師の　笑顔につられ　和む父	長戸　康孝　様

SAITAMA Campus

「世界一のいも掘りまつり」で教育学部１年生が三芳町の皆さんと交流しました

10月3日、三芳町主催「世界一のいも掘りまつり」に教育学部1年生が参加、開会式ではオリジナルソング『よしヨシMIYOSHI！カーニバル―SUN富SAMBA―』を歌い踊り、専用テント内の『いも版制作体験コーナー』では参加者の方々と交流を深めながら収穫の喜びも大いに楽しみました。係の学生たちは、開催日までの準備、当日の担当業務に至るまで懸命に取り組み、まさに「共生」を実感する行事となっています。

淑徳大学・文京学院大学共催講座

今年度は「認知症社会に備えて」というテーマで、10月3日（文京学院大学）、と10日（淑徳大学埼玉キャンパス）の両日、連続講座が開かれました。淑徳大学からは2日目に看護栄養学部教授の田代和子先生が「認知症の判断・治療・支援」というタイトルで講演を行い、その後、和光病院服看護部長の石川容子氏を中心に「さあ、あなたならどうする？家族が認知症になったら！」というテーマでワークショップと質疑応答を行いました。

つるせよさこい祭り2015

57の踊り子チームと3万人以上の観客が集う第10回つるせよさこい祭りが、大学近隣の東武東上線鶴瀬駅西口で10月18日に行われ、経営学部観光経営学科岩村ゼミの2年生と3年生15人が、踊りの進行のボランティアとして、57チームの会場での招集と踊りの進行管理を行いました。朝6時半から始まった準備から午後7時までの会場撤収作業まで、学生は祭りの進行に深く関わるとともに、祭りの運営の方法を学びました。

㈱コロワイド×淑徳大学・野木村ゼミと目白大学・越川ゼミのプレゼン大会開催

11月21日、「牛角」や「温野菜」などを運営する大手外食産業㈱コロワイドの協力の下、経営学部・野木村ゼミと目白大学・越川ゼミによる「ラ・パウザのクリスマス・キャンペーン企画のプレゼンテーション大会」が、横浜みなとみらいのランドマークタワーにて開催されました。学生はこの企画を通じて、経営理論だけでなくイマジネーションの大切さやチームワークの大切さ等を多くのことを学ぶことができました。

TOKYO Campus

「農業体験」サークル大根のタネまきと人参の間引き作業

9月12日、人文学部の「農業体験」サークルの学生3名と土井進教授は、板橋区赤塚支所「都市農業係」と板橋区農芸指導員8名の皆様とともに、農業ボランティアに参加しました。

この日は人参を5センチ間隔で間引き作業。その後大根の種まきをしました。これらの野菜は11月に行われる第38回「板橋農業まつり」において、親子収穫体験でも使用されます。こうしたボランティア作業は昨年に続いて今年で２回目。今回も板橋区民に喜んでいただけるように、一丸となって農作業に励みました。

板橋区と連携してのプロジェクトラーニング

人文学部表現学科では、PBLに積極的に取り組んでいます。そのうちの一つが「表現文化研究Ⅴ（制作表現）で、板橋区と連携して行うプロジェクト型学習です。発行部数20万部の板橋区報「広報いたばし」に、「若者が発見した板橋区の魅力」というテーマで記事を出稿するもので、学生はいま初めての取材に取り組んでいます。

「八潮子ども夢大学」開催！

11月7日、埼玉県八潮市の小学生が「八潮子ども夢大学」と銘打って淑徳大学東京キャンパスを訪問し、大学体験をしました。当日は人文学部歴史学科の考古学研究会と教職サークル「師道塾」がその運営を担当。この日は考古学の標本作製体験として「拓本作り」に取り組みました。参加した児童からは、「実際の縄文土器に触れることができて楽しかった」などの声があがりました。学生たちにとっても、自らの知識や教育技術を再確認するうえで貴重な体験となったようです。

SHUKUTOKU
Together
209
The Shukutoku University Newsletter
発行日：平成28年1月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

今春から看護学研究科開設

北側外観イメージ

平成28年4月より、淑徳大学大学院に看護学研究科が開設されます。

本大学院は、応用的な理論と研究能力を養うことで、文化と福祉の増進に貢献することを目的としています。看護学研究科ではそれを踏まえ、看護学を中心とした教育研究対象とし、人々の健康と安寧のため、地域社会の保健・医療・福祉の向上を目的としています。

内観イメージ（キャンパスラウンジ）

こういう人材を育てます

- 看護学の基礎的知識と適切な研究法を身に付けた、研究者や教育者
- 実践の現場の中から、よりよい看護実践を科学的に探究し還元できる指導的看護者
- 専門的知識を応用し、多職種との連携・協働の中で組織運営ができる看護管理者

看護に関する実践や教育・研究活動に高い理想と広い視野、そして深い洞察力を備え、地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与しうる人材を育成します。

栄養学科の

知識モリモリ×栄養モリモリ vol.10

今回は宮原 公子 先生に伺いました。

若い世代から骨粗鬆症予防の生活習慣を

生活習慣病の一つである「骨粗鬆症」。高齢化社会を迎え年々増加の一途をたどり、患者は約1,000万人を超えていると推測され、中高年女性のみならず若い女性や高齢男性も注意が必要です。

骨粗鬆症とは、骨がもろくなって骨折などの障害を起こしやすくなった状態のことです。正常な骨の場合、骨吸収と骨形成のバランスが維持され骨量は一定値を保っています。骨の強さを判定する骨密度は、女性では18歳でピークに達し、40歳代までほぼ一定を保ちその後、閉経に伴い50歳前後から急速に低下します。

このように加齢とともに骨密度は減少しますが、骨粗鬆症の診断は、成人（20～44歳）の平均値を判断基準（Tスコア）とし、80%以上を正常、70～80%を骨量減少（要注意）、70%未満を骨粗鬆症と診断されます。

予防にはバランスのとれた食事と適度な運動が基本となります。さらに十分なカルシウム摂取と吸収をよくする栄養素（ビタミンD·K）を摂取することが重要です。加えてエネルギー源となる主食を適量⇒ご飯を毎食一杯以上を目安に、適度な運動⇒体重をかける運動を積極的に、を意識した生活を心がけることが有効です。

■ 編集後記

前号では淑徳大学創立50周年を記念した特別号を刊行し、本号においても埼玉キャンパス20周年式典の特集を掲載させていただくことができました。短い準備期間にもかかわらず、原稿をお寄せくださった卒業生及び関係者の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、私が学内広報誌「Together」の編集に関わって2年が経ちます。初めて編集に携わる仕事をしてみて、1冊の広報誌を作り上げるだけでも多くの方の協力と労力と時間がかかるのだと実感しました。また、取材対象者の学生や関係者の皆様と様々なお話を聞くことができ、淑徳大学という大学を改めて考えることができたと感じております。

最後になりますが、今年もまたこの「Together」が、皆さま方に末永くご愛読していただけるような内容を目指していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。（堀江）

「淑徳大学広報」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

■ 千葉キャンパス
総合福祉学部／コミュニティ政策学部
大学院総合福祉研究科
千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL. 043-265-7331

■ 埼玉キャンパス
国際コミュニケーション学部／経営学部
教育学部
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL. 049-274-1511

■ 通信教育部
東京都板橋区前野町5-8-7
TEL. 03-5392-5768

■ 千葉第2キャンパス
看護栄養学部
千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL. 043-305-1881

■ 東京キャンパス
人文学部
淑徳大学短期大学部
東京都板橋区前野町6-36-4
TEL. 03-3966-7631

■ 池袋サテライト・キャンパス
東京都豊島区南池袋1-26-9 MYT第2ビル7F
TEL. 03-5979-7061